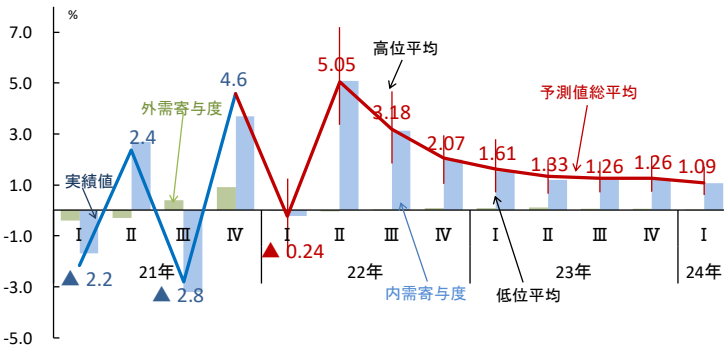


## 1 22年1～3月期の実質経済成長率(前期比年率)は▲0.24%、4～6月期は5.05%。

22年1～3月期の実質経済成長率(前期比年率)は▲0.24%とマイナス成長となる。4～6月期は5.05%とプラスに転じる見込み。ともに21年10～12月期のGDP速報値公表前に集計した前月調査より下方修正された。



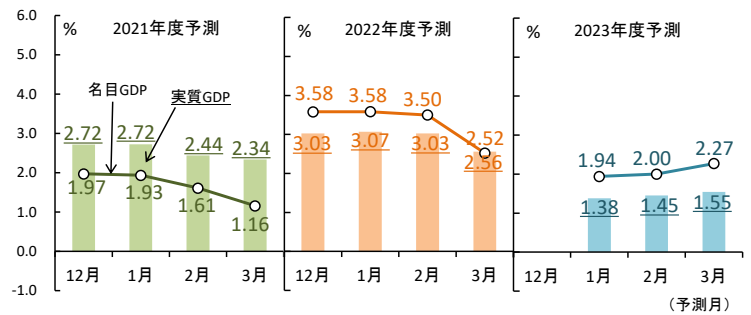
◆22年I期(1～3月期)実質GDP及び内訳の増減率(%)

実質GDP前期比年率(前期比)	民間最終消費支出	民間企業設備投資	財貨・サービスの輸出	財貨・サービスの輸入
▲0.24 (▲0.07)	▲0.83	1.11	0.79	0.87

(注) 内訳4項目は前期比。

## 2 21・22・23年度の実質経済成長率は2.34%、2.56%、1.55%。

21年度の実質経済成長率は2.34%と3年ぶりにプラスに転じる。22年度は2.56%と前月調査より下方修正された。23年度は1.55%の見込み。名目成長率は21、22年度に前月より下方修正された。



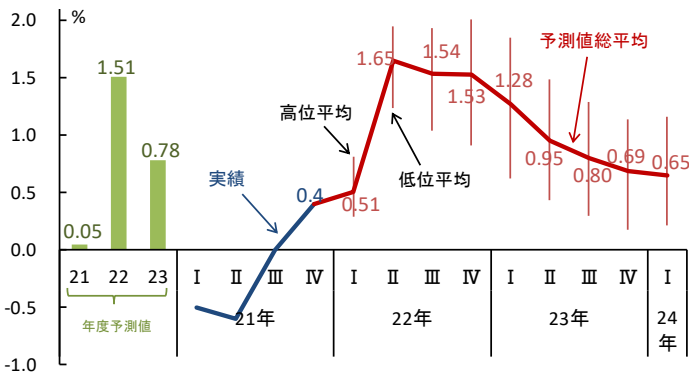
	2021年度	2022年度	2023年度
内需寄与度	1.3(1.4/1.1)	2.4(3.0/1.7)	1.5(2.1/1.0)
うち民需	1.3(1.4/1.1)	2.2(3.0/1.6)	1.3(1.9/0.8)
うち公需	0.0(0.1/▲0.0)	0.2(0.5/▲0.1)	0.1(0.3/▲0.1)
外需寄与度	1.1(1.1/1.0)	0.2(0.4/▲0.2)	0.1(0.4/▲0.2)
実質GDP成長率	2.34(2.45/2.23)	2.56(3.21/1.94)	1.55(2.09/1.06)

(注1) 値の見方: 平均(高位平均/低位平均)

(注2) 1・2の寄与度は簡易計算によるもので厳密なものではない。

## 3 消費者物価上昇率(前年同期比)

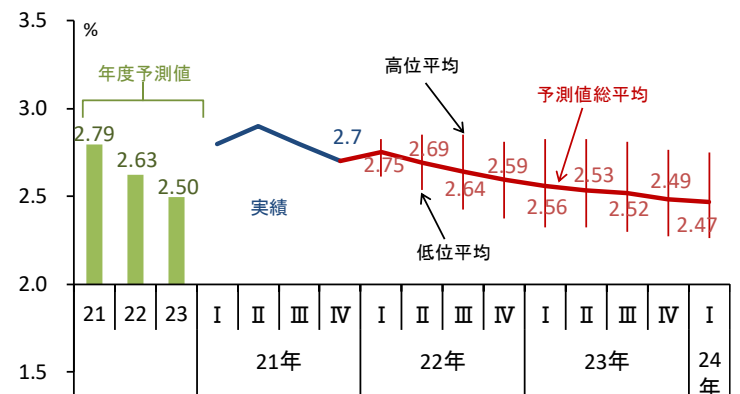
前月調査より上昇修正され、22年1～3月期は0.51%の見込み。4～6月期に1.65%まで上昇するが、以降24年1～3月期まで徐々に低下する。年度では、22年度に1.51%と上昇率を高めた後、23年度は0.78%の見込み。



(注) 生鮮食品除く総合の前年同期比上昇率。

## 4 失業率

22年1～3月期は2.75%の見込み。以降24年1～3月期まで低下が続く。



## 5 22年1～3月期の成長率（その他項目）

主要4項目以外の需要項目について、22年1～3月期の動きを尋ねた。上昇するという回答が多い項目は、「政府最終消費」だった。

（回答数 36、公的在庫変動は 35）

（実質）	民間 住宅投資	民間 在庫変動	公的固定 資本形成	政府 最終消費	公的 在庫変動
上昇	13	20	14	33	1
横ばい	6	13	4	3	33
低下	17	3	18	0	1
回答数	36	36	36	36	35

（注）フォーキャスター数（名）。前期比伸び率の符号を質問し、プラスの場合に「上昇」、ほぼゼロの場合に「横ばい」、マイナスの場合に「低下」とした。在庫変動はGDP成長率に対する寄与度を尋ねた。

## 6 景気の転換点・・・20年5月が谷

20年5月の景気転換点（谷）（政府見解、暫定）の次の景気転換点（山）はもう過ぎたかどうかを聞いた。（回答数 35）

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・1名（前月調査1名）

転換点（山）は2021年12月・・・1名

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・34名（同33名）

今後1年以内に転換点（山）がくる確率の予測の平均・・・30.3%（同25.8%）

転換点（山）を過ぎたと思う人にその次の景気転換点（谷）も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・0名（同1名）

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・1名（同0名）

## 7 （特別調査）金融政策と金利見通し

### 1) 金利見通し

22、23年末の短期政策金利と長期金利の誘導目標の見通しを尋ねた。短期の政策金利は、22年末は回答者全員が現行並みの「▲0.1%以上0.0%未満」と回答し、23年末も「▲0.1%以上0.0%未満」が多かった。（回答数22年36、23年35）

長期金利の誘導目標は、22、23年末とも現行並みの「0.0%以上0.1%未満」が多かった。（回答数22年36、23年34）

長短金利の予想値分布 (%)		▲0.3 未満	▲0.3 ～ ▲0.2	▲0.2 ～ ▲0.1	▲0.1 ～ 0.0	0.0 ～ 0.1	0.1 ～ 0.2	0.2 ～ 0.3	0.3 ～ 0.4	0.4 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0以上
短期の政策金利	現行=▼	▼											
	2022年末				36								
	2023年末			1	30	4							
長期金利の誘導目標	現行=▼	▼											
	2022年末					35	1						
	2023年末				1	30	3						

（注）フォーキャスター数（名）。例えば、「▲0.1～0.0」は「▲0.1%以上0.0%未満」の意味。

### 2) 枠組み自体の変更

上記の見通しに関して枠組み自体の変更などを聞いたところ、長期金利の誘導目標の変更など3名のフォーキャスターが答えた。

[詳細は9ページ参照]

## 8 (特別調査)米国金利

### 1) 政策金利見通し

22、23年末の米国の政策金利（FFレート・市場実勢値）の予想を尋ねた。回答が多かったのは、22年末は「1.0%以上1.5%未満」、23年末は「2.0%以上2.25%未満」だった。

(回答数 22年36、23年34)

米FFレートの予想値分布(%)	0.0 ～ 0.25	0.25 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0 ～ 1.25	1.25 ～ 1.5	1.5 ～ 1.75	1.75 ～ 2.0	2.0 ～ 2.25	2.25 ～ 2.5	2.5 ～ 2.75	2.75 ～ 3.0	3.0 ～ 3.25
2022年末		1	1	2	10	10	4	7	1				
2023年末		1			1	2	7	5	11	3	2	2	

(注) フォーキャスター数(名)。例えば「0.75～1.0」は「0.75%以上1.0%未満」の意味。

### 2) 長期金利見通し

22年6月末～23年12月末の米国の長期金利（10年国債）の予想を尋ねた。回答が多かったのは、22年6月末は「1.9%以上2.1%未満」、12月末は「2.0%以上2.3%未満」、23年6月末は「2.2%以上2.4%未満」、23年12月末は「2.4%以上2.5%未満」だった。

(回答数 22年34、23年6月33、23年12月31)

米国の長期金利 (10年国債)の 予想値分布(%)	1.7 ～ 1.8	1.8 ～ 1.9	1.9 ～ 2.0	2.0 ～ 2.1	2.1 ～ 2.2	2.2 ～ 2.3	2.3 ～ 2.4	2.4 ～ 2.5	2.5 ～ 2.6	2.6 ～ 2.7	2.7 ～ 2.8	2.8 ～ 2.9	2.9 ～ 3.0	3.0以上
22年6月末	3	6	7	7	6	3	1	1						
22年12月末	1	1	5	7	7	7	2	2	1	1				
23年6月末		1	2	6	1	9	7	4	1		2	1		
23年12月末		1	2	2	3	2	5	10	4		2			2

(注) フォーキャスター数(名)。例えば「1.0～1.1」は「1.0%以上1.1%未満」の意味。

## 9 (特別調査)景気のリスク

半年から1年後にかけて景気上昇を抑える（あるいは景気を反転させる）可能性がある要因を聞いた。「原油価格の上昇」が最も多く、「国際関係の緊張や軍事衝突」、「新型コロナウイルスの感染状況」と続く。「その他」に2名が回答し、「欧州経済の減速」を挙げた。

(回答数 35)

[リスクとして挙げた理由(20名が回答)については9ページを参照]

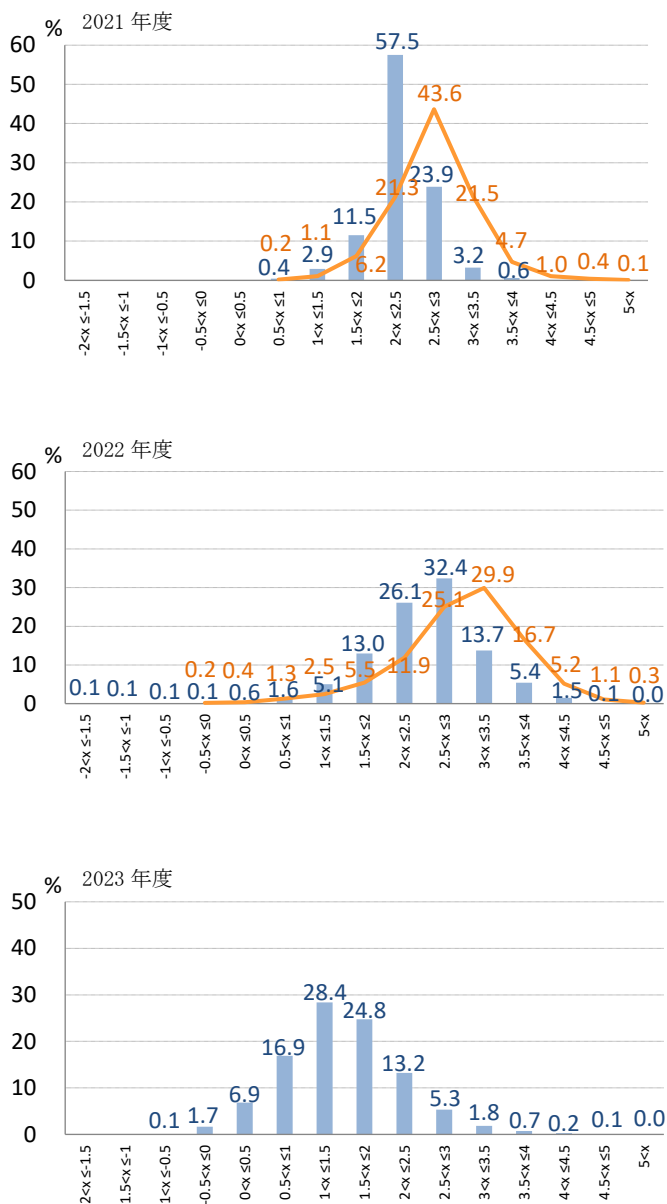
### ◆景気のリスク(複数回答、3つまで)

① 円高	3
② 株安	5
③ 金利上昇	3
④ 原油価格の上昇	29
⑤ 公共投資の減少	0
⑥ 米国景気の悪化	8
⑦ 中国景気の悪化	4
⑧ IT部門(電子部品など)の悪化	2
⑨ 国内政治の不安定化	0
⑩ 国際関係の緊張や軍事衝突	26
⑪ 保護主義の高まり	0
⑫ 新型コロナウイルスの感染状況	21
⑬ その他	2

(注) フォーキャスター数(名)。

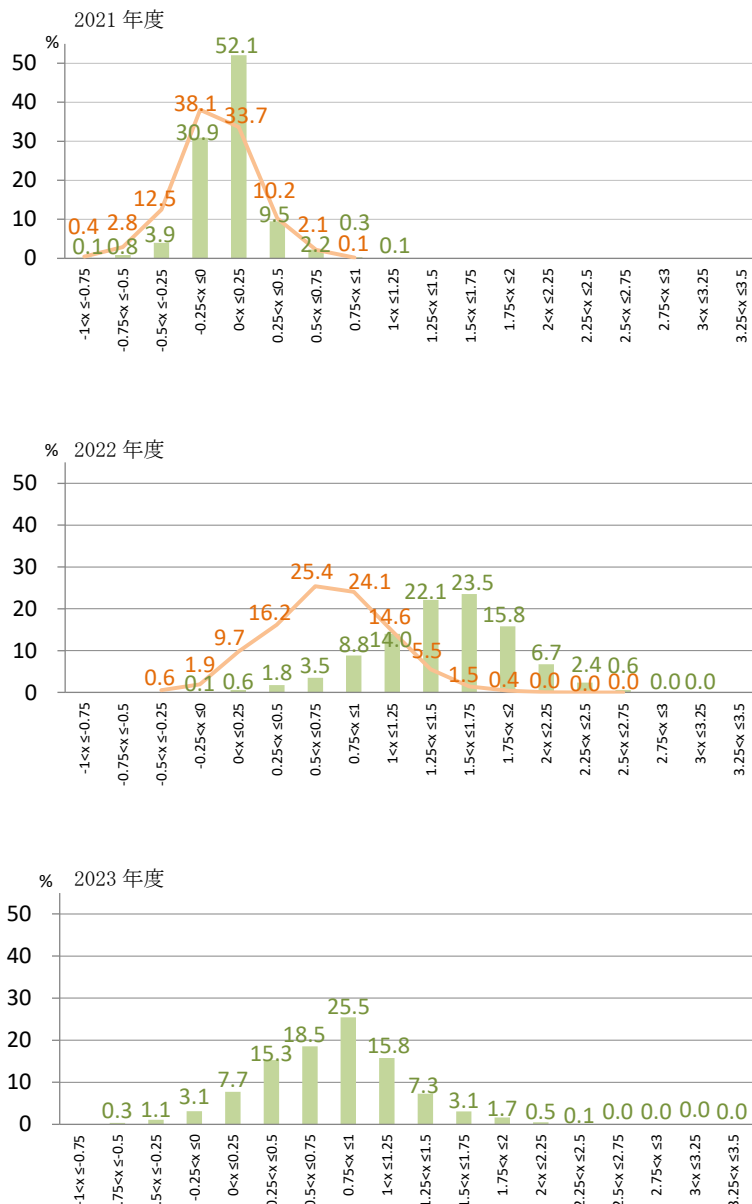
### 実質 GDP 増加率のコンセンサス予測の不確実性

—各レンジの平均確率—



### CPI(生鮮食品除く総合)騰落率のコンセンサス予測の不確実性

—各レンジの平均確率—



(注)各フォーキャスターが各レンジに付した確率の平均値。折れ線グラフは、21年12月の予測値。

(参考) 海外主要3カ国・地域の実質GDP成長率予測(暦年、%)

	米国	ユーロ圏	中国
2021年	5.7	5.3	8.1
2022年	3.55 (3.85)	3.23 (3.88)	5.02 (5.05)
2023年	2.34 (2.39)	2.27 (2.36)	5.15 (5.18)

(注) 21年は実績値。( )内は前月調査。

次回(2022年4月調査)の公表予定は4月12日頃